

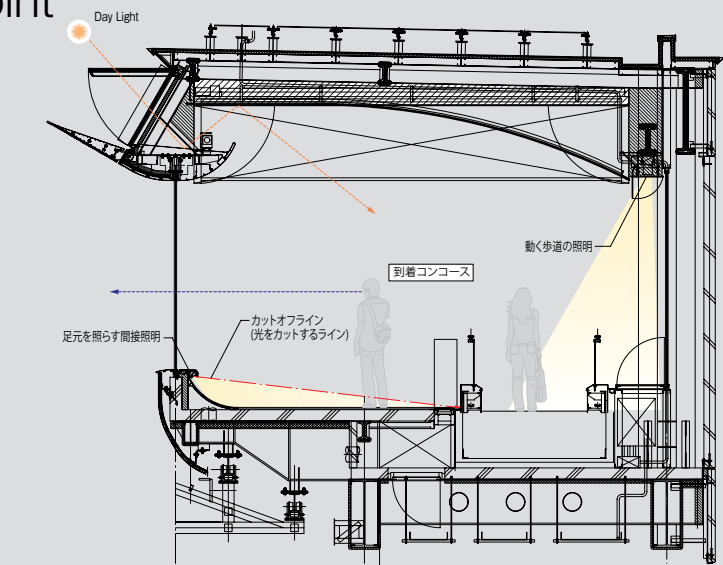
パノラマビューを活かした光の佇まい

成田国際空港第2旅客ターミナル連絡通路

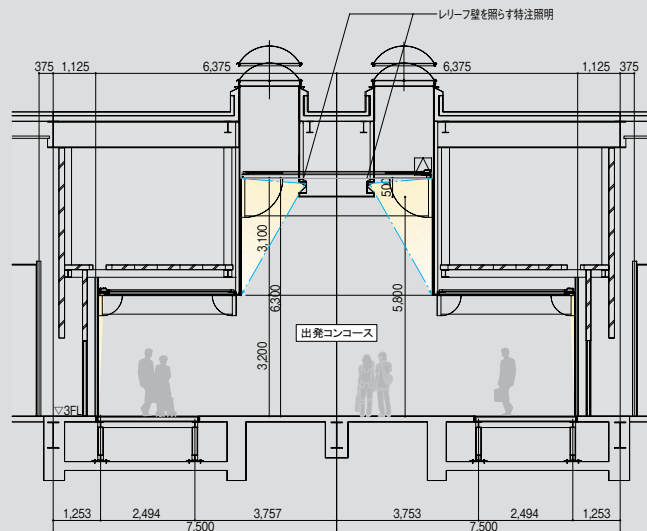
Narita Airport Terminal 2 Connecting Corridor

到着コンコースから見る。約220mの連絡通路。中央に出発コンコースとラウンジスペースが位置し、両脇に2本の到着コンコースが伸びる。照明は、ガラスへの映り込みを避けるため低い位置に配置、照明反射板を担うR形状をした腰壁が間接的に空間を照らす。
photo by Taku Hata (shokokusha)

Lighting Point



到着コンコース断面 縮尺 1/100



出発コンコース断面 縮尺 1/200

照明器具の存在感を無くす

到着コンコースの照明は、窓ガラスなど建築部材への映り込みに配慮した。照明器具は腰壁と一体となり直接光源が見えないよう工夫している。また、腰壁は照明の反射板としての効果を担ったR形状となっている。

サテライト側の出発コンコースは、照明器具の存在感を消すためにトプライト中央部側面に特注照明を連続的に配置した。指向性のある光がレリーフ壁の陰影を強調している。

動線を考慮して光で演出

成田国際空港第2旅客ターミナルとサテライトを繋いでいたシャトルを廃止して計画した約220mの連絡通路で、出発旅客のためのカフェやラウンジなどの新機能が追加された。内側を出発コンコースと出発旅客やトランジット旅客の付加価値空間として、カフェ、ラウンジ、仮眠スペースを置き、それを挟むように外側に到着コンコースが計画された。

到着コンコースでは、通路から外を見る視線を遮らないように、ガラスへの映り込みを極力避けるために照明は低い位置に配置され、床のみをほのかに照らしている。

各所では、動線を考慮し天井面や壁面、床面に効果的に照明を与え、明るさ感を高めながら誘導効果の高い計画をしている。ベース照明は各ゾーンごとに色温度2700K～3500Kを使い分け、憩いの空間をつくらしている。

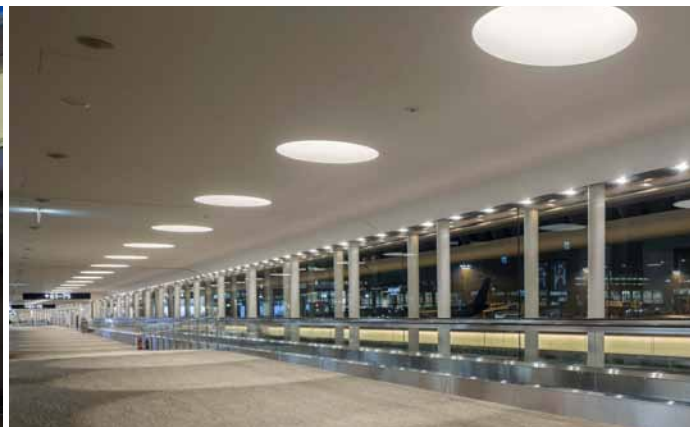
建築照明手法に徹することで、照明器具を目立たせず、間接照明や光幕照明を各所に活かし、光の効果だけで建築を際立たせる照明計画とした。

物件概要

- 竣工：2015年4月
- 所在地：千葉県成田市
- 施主：成田国際空港株式会社
- 設計：日建設計・梓設計共同企業体
- 施工：株式会社大林組
- 電気工事：株式会社関電工



東側から見る外観。シャトル軌道の上に第2ターミナル本館とサテライトを繋ぐ連絡通路が設けられた。



到着・出発動線はガラス越しに隣り合い、φ=250mmの鉄骨柱を各コンコースに千鳥配置させることで水平方向の眺望を遮らない構成とした。

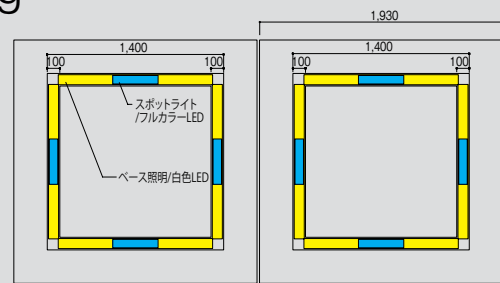


出発コンコース。中央上部にはトプライトが設けられている。夜間はトプライト中央部側面の特注照明で対面のレリーフ壁を照射している。レリーフ壁の陰影を演出しながら均一に明るい壁面をつくり、明るさのあるダイナミックな空間とした。

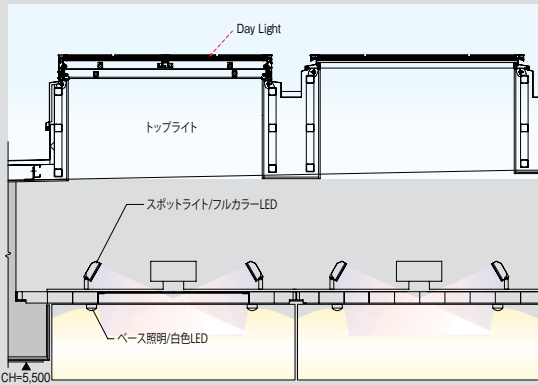


ラウンジスペース。日本ならではの格子などをモチーフとして和を感じ取れるインテリアとしている。カフェや仮眠スペースなどが並ぶ場所にトップライト、光膜天井を用いて寛ぎの空間を構成。夜間では春は桜色、夏は水色など日本の四季を感じさせる淡い色合いの照明で癒しの環境をつくる。

Lighting Point



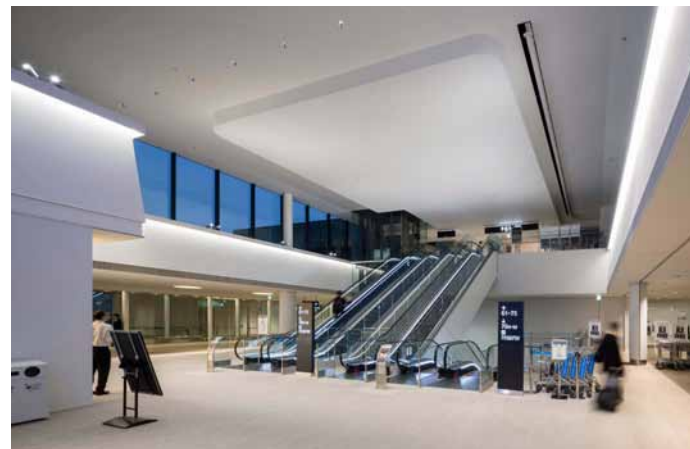
ラウンジスペース天井照明伏図 縮尺 1/60



ラウンジスペース天井照明断面 縮尺 1/60

フロアのさまざまな機能に呼応する天井照明

ラウンジスペースの天窗には、和紙風パネルの付いた光天井を設置した。内部にはフルカラーのLED照明が配置されている。天窗に設置された照明器具は昼間自然光の影にならず、夜は幕を均一に照らしムラの出ない位置に設置されている。



上：本館側より下階の出発コンコースを見る。腰壁部分の間接照明や天井へのアップー照明を用いて、しっかりとした明るさをつくり出した。
下：エスカレータの乗り降り口上部のダウンライトはグレアスタイプで存在感を消しながら十分な明るさ(約250lx)が確保され開放感と安心感のある空間とした。

到着ロビー



成田国際空港第2ターミナルの到着ロビー

日本の印象を与える天井

供用開始後20年が経過した成田国際空港第2ターミナルの到着ロビーの天井のリノベーションプロジェクトで、壁や床の色調、天井のモチーフの見直しを実施した。壁と天井は白系統の色を採用、吹き抜け部分の天井は膜材を活用し、そこはかたない和の雰囲気を出し、訪れる旅客

に柔らかな印象を与えることを意図した。また、LED照明を約1,300台設置し、障子を照らす明かりのように最軽量材料である膜を使用して天井を演出した。日本の玄関としてふさわしい「和の抽象美」を彷彿させるモチーフを取り入れ、日本の品格、繊細さ、華美ではない上質感をつくり出した。

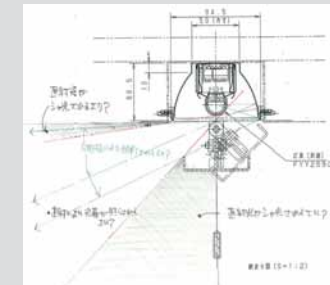
物件概要

竣工：2016年2月
所在地：千葉県成田市
施主：成田国際空港株式会社
設計：日建設計・梓設計共同企業体
施工：前田建設工業株式会社
電気：株式会社昭永電設



到着ロビー天井を見る。膜をどのように効果的に照らし照度と明るさ感を両立させるかシミュレーションを行った。

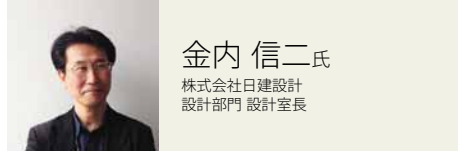
Lighting Point



断面詳細スケッチ 縮尺 1/8

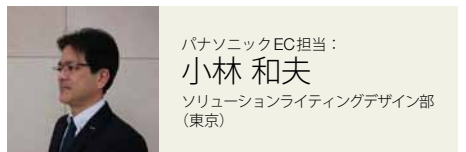
幕と一体化した照明

明るさ感の向上を狙い、膜を照らしながら器具を目立たせない膜材との一体化した照明の構成とした。短い膜材の直上に照明を組み込み直射光と反射板により制御された光が隣の長い膜材を照射する。



金内 信二氏
株式会社日建設計
設計部門 設計室長

ほしいのは純粋に光だけで、照明器具はできるだけその存在を感じさせたくないという思いに添えてくれ、「主役は空間」となる演出を実現し、リノベーションと感じさせない効果をもたらしました。



パナソニックEC担当：
小林 和夫
ソリューションライティングデザイン部
(東京)